

東京都障害者スポーツ大会 「スポーツの集い」 報告

2018/09/05



東京都障害者スポーツ大会「スポーツの集い」

9月5日（水）、武蔵野の森総合スポーツプラザメインアリーナにて、東京都障害者スポーツ大会「スポーツの集い（知的障害部門）」が行われました。本学からは、スポーツボランティアプログラムの3年目（リーダー）の学生が5人、2年目（サポーター）の学生が3人、1年目の学生が7人の計15人が運営ボランティアとして参加しました。

「スポーツの集い」は、在宅及び施設等を利用している知的障がい者（児）とその家族や関係者がスポーツに触れ、生涯スポーツの実現、心身の健康の維持・増進、社会参加（自立）へ向けた意欲の促進、社会の多くの人々の障がい者理解を深めるといった目的で開催されています。

◆競技種目

※盆パバピクス 全員参加

1. 花文字作り
2. 100m競走
3. 30m競走
4. つなひき
5. 大玉ころがし
6. リレー

※玉入れ 全員参加

・活動内容

首都大生は、「編成誘導係」と「フロアー係」の2つの役割に分かれて活動しました。

「編成誘導係」は、召集場所での選手の整列や、競技待機場所までの誘導を担当しました。

「フロアー係」は、競技位置までの誘導や安全確保、応援など、競技フロアーにおける基本的な運営に携わりました。

障がいのある方とふれあうことが初めての学生もいる中、サポーターやリーダーの先輩学生が1年目のメンバーをさりげなくサポートし、決められた役割がないときにも自分たちで役割を見つけて臨機応変に動いていました。また、笑顔で声かけを行い、コミュニケーションをとったり、応援をしたりして、積極的に大会を盛り上げようとしているところが印象的でした。

・学生の感想

- 選手の方が懸命に取り組んで楽しんでいる様子や施設の方が必死に応援して喜んでいる姿を近くで見ることができて、そこに関わって良かったと思った
- 今年は違う役割だったけど、余裕ができて参加した人が楽しんでくれている様子を見ることができた
- 今年はフロア係で例年より競技に近くて迫力があつた
- 日本でのボランティア活動は今回が初めてだったが、学ぶことがたくさんあった（留学生）
- 今回の活動が初めてのボランティア活動だった。参加者個人と関わるのは難しかったけれど、最後に「お疲れさまでした」と言ったときに、参加された方の笑顔が印象的だった
- 最初に誘導した人が覚えていてくれて、二度目に会ったときに報告に来てくれて嬉しかった
- 首都大生以外のボランティアの方々と話せて、自分自身も楽しめた
- 障がいのある参加者との関わり方について、どのように関わればいいのか、どのような関わり方ができるのかを活動しながら考えていた。手話などができたらいいなと感じたし、もっと勉強したいなと思った

今回の活動を通して、戸惑いながらも障がいのある方への理解や接し方を学び、障がい者スポーツや、それを支えるボランティアへの関心が高まったようです。



旗を振って応援している様子



プラカードを持って整列している様子



ゴールした選手を誘導している様子



コースの目印となるロープを持ちながら応援している様子



集合写真